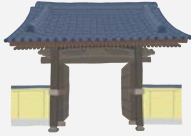
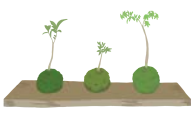


	イラスト	タイトル	種別	解説・ヒント	備考
1		旧小林家 奥座敷からの眺め (田園風景)	風景	萩往還おもてなし茶屋（旧小林家住宅）の2階の奥座敷からは、佐々並の山里に広がる田園風景を眺めることができます。かつて街道を歩いた旅人も、この景色を見てほっと安らいでいたかもしれません。	
2		2階から見下ろす 中ノ町の町並み (萩往還)	風景	萩往還おもてなし茶屋（旧小林家住宅）の2階の表座敷からは、萩往還であり佐々並市のメインストリートである中ノ町を見下ろすことができます。1階の土間の天井の高さに合わせて、一段床が低くなっているのので、まるで手の届くような高さから町並みを眺められます。	
3		田んぼの風景	風景	佐々並川に沿った土地に、田畑を作っている佐々並は、稲作の季節になると水を張った田んぼに周囲の山里が映り、山の深い緑と稲の若い緑、そして民家の赤瓦のカラフルでコントラストが美しい風景が広がります。	
4		台山から望む 佐々並市の町並み	風景	佐々並市の南側にある台山（だいやま）からは、山々に囲まれ、佐々並川と萩往還を中心に開かれた町並みを一望することができます。	
5		上ノ町の町並み (佐々並の戦い跡)	風景	上ノ町の町並みには、茅葺屋根にトタンをかぶせたトタン葺きの古民家が並び、他の通りと少し異なる風景を見ることができます。 幕末には「佐々並の戦い*」の現場となり、12軒の家が焼失しました。その当時に建て替えられた家为上ノ町の町並みに今も残っています。	*高杉晋作が率いる奇兵隊と藩の保守派が戦った「太田・絵堂の戦い」では、協戦として「佐々並の戦い」が起こりました。
6		細い路地	風景	家と家の間には、人や馬が通れる道がありました。この路地もその一つです。 路地の先に、向こう側の家がちらりと見えるのがわかりますか？	
7		ささなみ豆腐	伝統食	ささなみ豆腐は、江戸期以来、土山家が安政5年から製造を始めたとしてされています。四代目の亀太郎が作った豆腐は伊藤博文のお気に入りだったそうです。 水に浸した大豆を潰し、さらしの袋で豆乳をとる「生搾り」が特徴で、佐々並の美味しい地下水を使用して作られる豆腐は、舌触りと食感の良さが評判です。	現在、その製法は、はやし屋旅館に受け継がれ、豆腐料理を予約制で食べることができるほか、同店の監修を受けた業者が作る豆腐を道の駅などで買うことができます。また、ささなみ豆腐づくり体験も行われています。

	イラスト	タイトル	種別	解説・ヒント	備考
8		あまぎゃあ（甘粥）	伝統食	お米を丁寧に発酵させてつくる甘酒で、佐々並では甘粥（あまぎゃあ）と呼ばれる。昔の栄養ドリンクのような存在で、各家で作られていた伝統食。萩往還おもてなし茶屋では、昔ながらの作り方で作る甘粥を味わうことができます。	
9		佐々並川	自然といきもの	一億年前に巨大噴火をした佐々並カルデラの谷底を流れる佐々並川。山々から水が集まってくる地形になっていて、ゆるやかに傾斜する谷底平野に棚田を作り、米作りが行われています。	
10		佐々並川とコイ	自然といきもの	佐々並大橋から川を眺めて、佐々並川に生息するコイを見つけられたら、ラッキー！	
11		御茶屋跡・佐々並尋常小学校跡	史跡	萩往還を歩く際に、藩主が休憩する「御茶屋（おちゃや）」が設けられた場所です。その後、佐々並尋常小学校が置かれました。現在は、小学校の門柱が入口に残り、地区の公会堂として建物の一部が活用されています。	
12		水路の交差点	工作物	山から下りてくる水と、生活用水や農業用水として川から引いた水の水路が立体交差しています。田んぼを作る時期には、水をせき止めて、水を引き入れられるしくみになっています。	
13		佐々並の水路	工作物	佐々並の集落には水路網が張り巡らされ、周囲の水源から引かれた水は田畑や生活の用に使われた後、最終的にすべて佐々並川に戻される仕組みになっていました。これらの水路は、現在でも使われ、各所で水のせせらぎを感じることができます。	
14		萩往還マンホール	工作物	佐々並地区のご当地マンホールには、萩往還の石畳や佐々並川沿いに自生するキシツツジが描かれています。	

	イラスト	タイトル	種別	解説・ヒント	備考
15		水車	工作物	萩往還おもてなし茶屋1階の主座敷庭の奥にある庭池には、水車が置かれています。池ではメダカも育てられています。	
16		一里塚	工作物	萩往還の街道の道標として作られた一里塚。一里＝約4kmごとに目印として作られていました。この一里塚は、地元では「市頭の一里塚」と呼ばれていて、ちょうど山口側から萩往還を歩いてきた人にとっての佐々並市へ入る目印になっていました。	
17		象の鼻？（持ち送り）	建物パーツ	「持ち送り」と呼ばれる、軒桁を支える建物のパーツ。かつては、それぞれの家の納屋に牛や馬がいて、それらが通るために、軒下の幅が広がっていました。大きな梁から突き出た持ち送りには、赤いべんがらで塗られて、木彫りの装飾が施されています。	
18		赤い石州瓦とむしこ窓	建物パーツ	旧椿家の建物では、町家の建物に特徴的な白壁で塗りこめた「虫籠窓（むしこまど）」や、延焼防止や装飾の目的で2階の壁を道路側に突き出した「卯建（うだつ）」を見ることができます。 椿家は、かつて米・さとう・塩・薬・雑貨を販売するお店を営んでいました。	
19		トタン葺き屋根の古民家（火除けのおまじないの鵜尾）	建物	赤いトタンで茅葺の屋根を覆っている屋根が特徴的な古民家です。他の町家と比べて、屋根の傾斜が急で大きくなっています。石州瓦が普及する前は、茅葺の屋根がこのエリアの家の定番でした。屋根の一番上の端をよく見ると、火除けのおまじないを込めた、魚のしっぽのような形をした棟飾りを見つけることができます。	他の家ではどんな飾りがついているか、よく見てみましょう！
20		佐々並地区交流促進施設「みなくる」（旧佐々並駅）	建物	昭和8年に鉄道省営バスの停留所「佐々並駅」として建てられたレトロな建物です。洋風の大きな格子窓や下見板張りになっているのが特徴で、まわりの町家の建物との違いを比べるのもおもしろいです。現在は、佐々並地区交流促進施設「みなくる」として活用されています。	
21		萩往還おもてなし茶屋（旧小林家住宅）	建物	江戸時代に人や馬を取り次いだ「目代所」跡に建つ旧小林家住宅はかつての旅館の建物で、萩往還を望む表座敷や田園風景を眺める奥座敷などを体感できます。佐々並の郷土食「甘粥（あまぎゃあ）」などが提供され、佐々並や萩往還にまつわる資料の展示、地元の方が作るお菓子や手工芸品の販売もあり、現代の茶屋として佐々並の魅力を味わうことができます。	

	イラスト	タイトル	種別	解説・ヒント	備考
22		西岸寺の四脚門	建物	西岸寺の門は四脚門（しきゃくもん）という造りで、馬に乗ったまま通れるように、開口部が高くなっています。藩主の参勤交代の際には、人馬配所に指定されていました。	
23		軒下に並ぶ苔玉	ワンポイント	地元の方が、周囲の山から良質な苔や植物を集めて、苔玉を手作りして軒先を飾っています。中に植えられている植物もリュウノヒゲやモミジなど、周囲の山に生えているものが活用されています。	
24		軒先を飾る手づくりの花	ワンポイント	佐々並の皆さんが、町並みを訪れた人へのおもてなしの気持ちを表そうと、竹筒の花入れと手づくりの布の小花で軒先を飾っています。通り沿いの家々にさりげなく飾られているので、歩く中で見つけてみてください。	
25		広場のかば	ワンポイント	萩市旭世代間交流施設「往還ふれあい塾」の広場にいます。かばの遊具。江戸時代、この場所には、上級武士が休息する「御客屋（おきゃくや）」がありました。向かい側にある小さな元理容店の建物も、御客屋の時の建物の一角が残っています。	
26		マル信の蔵	ワンポイント	旧小林家住宅の一角にある蔵の壁には、「○」に「信」と描かれた大きなマークがついています。これは、かつてお向かいにあった農協の信用部に蔵を貸していた時の名残といわれています。	
27		広場の時計	ワンポイント	佐々並市の一画にある広場の時計。この場所には、かつて、佐々並の村役場がありました。明木村と合併して「旭村（あさひそん）」になってからは、2年ごとに交互に役場が置かれた時期もあったそうです。毎日15時半になると、防災無線からラジオ体操が流れます。	
28		道の駅あさひ	シンボル	国道262号沿いの山口市から萩市街までの中間に位置する道の駅です。朝日の光をモチーフにしたアーチ状の屋根が特徴です。地元の新鮮野菜やお米、餅、漬物、味噌などの加工品を販売しています。	

はぎびんごを使って佐々並地区を歩いてみていかがでしたか？

よかったら、ハッシュタグ「#萩市佐々並」「#はぎびんご」をつけて感想を投稿してね！

佐々並のことをもっと知りたいときは[ホームページ](#)や[マップ](#)を見てみよう。

佐々並
「ささラブ」
HP
<https://sasalove.jp/>



佐々並
おたからマップ
<https://www.city.hagi.lg.jp/sit-e/machihaku/h30821.html>

